

第 32 期 事 業 報 告

〔 自 2020年4月 1日 〕
〔 至 2021年3月31日 〕

株式会社 NHKエンタープライズ

目 次

第3 2期事業報告

I. 会社の現況に関する事項	2
1. 事業の経過および成果	2
2. 事業の分野別の概況	5
(参考) 2020年度 コンクール等受賞一覧	31
3. 対処すべき課題	35
4. 設備投資等の状況	36
5. 資金調達の状況	36
6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況	37
7. 事業譲受の状況	37
8. 吸収合併・分割による他の法人等の事業に関する 権利義務の承継の状況	37
9. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権 等の取得の状況	37
10. 財産および損益の状況の推移	37
11. 主要な事業内容	37
12. 主要な事業所等	38
13. 従業員の状況	38
14. 重要な親会社および子会社の状況	38
15. 主要な借入先と借入額	39
II. 会社の株式に関する事項	40
III. 会社役員に関する事項	41
IV. 会計監査人の状況	43
V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況	44

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

「2018年度～2020年度 中期経営計画」の最終年度にあたる2020年度は、「SHIBUYAから“世界”へ」をキャッチフレーズに掲げ、3つのビジョンと8つの具体的な重点目標において、番組制作、イベント・展示、映像・ソフト販売等、多くの分野で積極的な取り組みを行いました。さらに、2020年4月にはNHKプラネットと合併し、各地域支社との連携による全国展開を進めてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響と、東京オリンピック・パラリンピックの開催延期によって、多くの事業や番組が中止や見直しとなるなど、甚大な影響を受けました。ロケの中止やリソース使用の制約等で番組制作が滞ったり、独自イベントの中止・規模縮小などもあり、2020年3月に策定した事業計画の収支フレームを年度途中で見直すことになりました。

当期の売上高は590億円（達成率102%）、営業利益は22億円、経常利益は23億円、当期純利益は14億円で減収増益となり、5年連続の売上最高額の更新記録は途絶えました。また、営業利益は当期減少しましたが、前年度特別損失としたワープステーション江戸の減損損失などがなかったため増益となりました。なお、NHKに対する副次収入は12億5千万円、目標の12億6百万円を上回り目標比103.9%となり、NHKブランドのリーチに一定の貢献を行うことができました。

NHK関連の業務では、新型コロナウイルス感染症をいち早く取り上げた様々な番組を制作しました。BS1スペシャルにおいて、「シリーズ コロナ危機」、「そして街から人が消えた～封鎖都市・ベネチア～」、「ウイルスVS人類3スペイン風邪100年前の教訓」、「仕事が消えた～コロナショック最前線」などを制作しました。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大で、番組制作業務にも大きな影響が出ましたが、その中でも新しい制作手法や演出を開発して、感染拡大が続く状況に応じた番組作りを行い、高い評価を得ました。多くのスタッフや出演者が参加するため収録が困難となったドラマ制作では、リモート収録という新しい手法で制作した「今だから、新作ドラマを作ってみました」や、エンターテインメント番組「おげんさんと（ほぼ）いっしょ」、アーカイブ映像を駆使して過去を振り返りながら未来を考える手がかりを伝えた、「ズームバック×オチアイ」等の制作を行いました。さらに、海外ロケにおいても、ディレクターが現地に行かずモバイル配信システムを使って現地カメラ

マンとライブ映像を見ながらリモートでロケをする、遠隔ロケシステムの導入も行いました。

定時番組では総合ゴールデンタイムの「チョコちゃんに叱られる!」、「突撃!カネオくん」、「所さん!大変ですよ」がいずれも好調。総合視聴率は10%を超え、U59は3~5%と現役層でも高いリーチを獲得することができました。また、地域への貢献としましては、BSプレミアムの「釣りびと万歳」や、食材を題材にした総合テレビ「うまいッ!」、視聴者の手紙の風景を自転車で訪ねるBSプレミアム「につぼん縦断こころ旅」など地域を舞台にした番組の制作もいたしました。

アニメ制作では「ログ・ホライズン 円卓崩壊」を、中国と共同制作し、Eテレでの放送をはじめ国内外での展開を行いました。また、中国の歴史ドラマ「コウラン伝 始皇帝の母」を調達し、NHK初の中国ドラマをBSプレミアムで放送しました。当社が開発した、過去のビデオ映像を4K並みの画質に蘇らせる「ビデオレストアサービス」によって、BSプレミアムでは「破獄」や「けものみち」、「濡つくし」などのドラマを放送し大変好評を得ました。音楽番組でも「山口百恵ラストコンサート」、「伝説のコンサート・わが愛しのキャンディーズ」など、リマスター版で放送しました。「山口百恵ラストコンサート」は、BSプレミアムでは総合視聴率2.7%を記録、総合テレビの再放送では、総合視聴率8.6%、U59は1.9%と大きな反響を得ました。

放送文化の向上に寄与する大型ドキュメンタリーやドラマ番組も多くを世に送り出しました。BS1スペシャル「バレリーナ吉田都 引退までの闘いの日々」や「地球タクシー ソウルを走る」が第57回ギャラクシー賞の奨励賞を受賞しました。ドラマでは「完本 怪談牡丹燈籠」が、第36回ATP賞テレビグランプリで総務大臣賞・ドラマ部門優秀賞、さらに文化庁芸術祭ではテレビ・ドラマ部門で優秀賞を受賞し高い評価を得ました。映画でも、8Kで撮影した「スパイの妻<劇場版>」が第77回ベネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞するという快挙を成し遂げました。

イベント関連では、予定していたリアルイベントがコロナ禍で中止が相次ぐ中、様々な新しい取り組みを模索してきました。「東京JAZZ」はリアル開催が中止となりましたが、YouTubeでのオンライン無料配信を実現し、12万5千人が視聴してくれました。「ロボットコンテスト」や「医療フォーラム」、「忍たま乱太郎ミュージカル」など多くの企画をオンラインに切り替えて実施し、今後の新たな可能性

を見出しました。

その他、新たな自主事業としてオンライン配信事業の「チョコちゃんといっしょに課外授業」のライブ配信を実施しました。チョコちゃんを冠に、知的好奇心を刺激する特別な課外授業を配信する事業で、熱海市のMOA美術館での「びじゅチューン！ライブ in サマー2020」や、新国立劇場でのバレエ「ドン・キホーテ」等、合計10件の配信事業を行いました。そのうち6件は、全国の文化施設の活性化、収益モデルの構築を狙った、文化庁の「博物館異分野連携モデル構築事業」に採択され、文化庁の委託を受けてイベント制作を行いました。また、8K技術を応用して視聴者の自由視点を叶える「8Kオペラグラス」も2月からサービスを開始しました。

DVD等の映像ソフト販売は、コロナ禍による巣ごもり需要の追い風があり、朝ドラや大河ドラマなどの旧作の販売が伸びるとともに、NHKのアーカイブを活用した商品の「沢田研二 BEST OF NHK」は、昨年12月発売以来7千セットを超える大ヒットとなりました。同じく巣ごもり需要で会員数を伸ばすVOD事業者へのコンテンツ提供も大幅増となりました。

国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）についても、NHKグループの中で最初にSDGメディア・コンパクトに加盟した当社は、全社をあげて積極的に取り組みを推進しました。社内横断プロジェクトを組織し、SDGs達成に向けた取り組みを強化しています。

また、社長直轄のプロジェクトとして業務改革推進室が発足し、事務局となって、人事評価制度の見直しや組織改正、22年度稼働を目指した基幹システムの開発など“全社的な業務改革”への取り組みに着手しました。

2021年度は、新しい中期経営計画の初年度となります。今後、厳しい経営環境を乗り越えてゆくため、変化を恐れず、新しいことに挑戦することが大切であるという認識を全社員で共有し、これからの3年間について、役員と全社員が多面的な議論を重ねて次期中期経営計画を策定しました。新しい経営理念「Enterprises for All! 冒険・創造・貢献。社会のために、すべての人のために！」を掲げ、全社的な業務改革を進めながら、NHKの放送を支え、また社会にソリューションを提供する様々な事業に、変化を恐れず挑戦してまいります。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2020年度はコロナ禍の影響で様々な制約があり、番組制作の手法も大きく変化しました。コロナ対策として、密を避けるためリモート収録や遠隔ロケシステムの導入、無観客での収録など、感染対策に努めた1年でした。このような状況の中、ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメント番組などNHKのテレビやラジオ番組を合わせて19,170本の番組を制作、売上高は406億4百万円でした。

番組コンクール関係では、「第77回ベネチア国際映画祭」で「スパイの妻」が銀獅子賞受賞、第36回ATP賞で「完本 怪談牡丹燈籠」が総務大臣賞・ドラマ部門優秀賞受賞、この他にも数多くのコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作本部全体のヘッドクォーターとして、事業提案を取りまとめ、番組制作に関する委託取引等を統括するとともに、新人若手社員の人材育成を進めました。また、番組制作に欠かせない、映像・音声等の編集リソースの効率的なマネジメントにも取り組みました。

デジタル開発部

Webサイト、データ放送、ハイブリッドキャスト、4K・8Kデータサービス、動画配信、VR・360度コンテンツ制作など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を支えました。

「NHKオンライントップページ」「NHK WORLD-JAPAN」「NHKドラマオンライン」「NHKアニメワールド」など、基幹サイトをはじめとしたNHKホームページの制作を実施しました。また放送連携事業では、「天才てれびくん hello」「沼にハマってきいてみた」「おやすみ日本 眠いいね!」「おしりたんてい」、連続テレビ小説「エール」、大河ドラマ「青天を衝け」などのデータ放送・ハイブリッドキャスト等の開発・運用を実施しました。

また、NHKのデジタル発信の中核となる大規模事業もデジタル開発部の重要な業務です。「東京2020大会サイト」「東京五輪競技サイト」など東京2020大会関連の事業は2021年夏に延期となりましたが、最先端の技術を駆使した大規模

なシステムを本番へむけて構築中です。3月末から始まった「聖火リレー」配信では、各地を走るランナーたち1人1人の姿をライブ配信しています。そして、NHKの放送同時配信サービス「NHKプラス」の運用監視業務も担っています。

これらのNHK事業で培ったノウハウを活かして独自事業にも取り組んでいます。「NTT R&Dフォーラム」では高精細画像を駆使してNTTグループのビジョンをプレゼンテーションする制作事業を受託。新しいイベント演出の姿を示すことができました。今年度から開始した「チョコちゃんといっしょに課外授業」は博物館、美術館などコロナ禍で入場者に制約がある文化施設と連携し展示内容をライブ配信するという独自事業です。配信という新しいメディアにも関わらず多くの視聴者に御覧いただきました。

番組開発部

コロナ時代に向き合い、多様なジャンルの幅広い視聴者層に向けた放送番組を企画・制作する一方、話題の映画製作への参画や、防災展などのソーシャルグッドへの貢献、最新の技術を使った先端の取り組みにも積極的にチャレンジし、NEPのプレゼンスを示しました。

総合テレビでは、世の中のお金にまつわるヒミツを掘り下げるバラエティ番組「有吉のお金発見 突撃！カネオくん」、毎月全国各地から生放送する「今夜も生でさだまさし」のほか、緊急事態宣言下においてもいち早くリモート収録によって制作したドラマ「今だから、新作ドラマ作ってみました」などにも、果敢に挑戦しました。Eテレでは、メディアアーティストの落合陽一が、コロナ禍によって激変する世相に鋭く切り込む「ズームバック×オチアイ」、おうち時間を過ごす親子のための工作番組「へんしん！ダンコちゃん」シリーズなどに取り組みました。BS1では「地球タクシー」や「グレートレース」などおなじみの番組のほか、BS1スペシャルでは緊急事態宣言下の音楽家たちの演奏で紡ぐ「孤独のオーケストラ」シリーズ、コロナによって激動する経済・社会情勢を世界の識者たちと考察する「シリーズ・コロナ危機」などを制作しました。BSプレミアムでは、静かに焚火を見つめながら語り合う異色のトーク番組「魂のタキ火」、また、国際放送向けには、奥深い日本の釣りの世界を紹介した「Fishing Crazy」などに取り組みました。

このほか、札幌オリンピックが開催された1972年の古写真をもとに、当時の

街並みをVRで再現する「1972 SAPPORO VR Project」、ポケモンを使い、防災の知恵についてわかりやすく伝える「進化する防災展」を企画し、東京をはじめ、全国各地で展開中です。またベネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した映画「スパイの妻」の制作にも参加し、BS8Kで放送しました。

情報文化番組部

ドキュメンタリーからバラエティ、ドラマまで幅広いジャンルで年間2,000本以上の番組を制作しました。総合テレビでは「チョコちゃんに叱られる!」「所さん!大変ですよ」「ファミリーヒストリー」「プロフェッショナル 仕事の流儀」「日本最強の城スペシャル」のほか、「ごごナマ」「ニュース シブ5時」といった情報番組を制作。Eテレでは「世界の哲学者に人生相談」のほか、特集で「オリガミの魔女と博士の四角い時間」「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」などを制作しました。

BS1では、「球辞苑」「COOL JAPAN」のほか、BS1ドキュメンタリー シリーズ「コロナVS人類」やシリーズ「コロナ危機」、BSプレミアムでは、「世界ふれあい街歩き」「英雄たちの選択」「岩合光昭の世界ネコ歩き」「晴れ、ときどきファーム!」「まんぷく農家メシ」「新日本風土記」「ダークサイドミステリー」といった定時番組のほか、特番では「映像の世紀プレミアム」や「生中継 令和を彩る京都の桜」、「京都・五山送り火2020」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。

国際番組では、「Trails to Oishii Tokyo」や「DESIGN TALKS PLUS」、4K8K番組では、「一瞬の、永遠の、にっぽん」「あてなよる」、「法隆寺1400年の祈り」「ウィーン アートの旅 クリムト 黄金絵画の輝き」などを制作しました。

自然科学番組部

定時番組では、総合テレビ「ダーウィンが来た!」「さわやか自然百景」、BSプレミアム「ワイルドライフ」の3番組を制作しました。

特集番組では、合計9本のNHKスペシャル(「ホットスポット 最後の楽園 season 3 第4・5回」「ホットスポット 最後の楽園 命をめぐる10年の記録」「オランウータン いのちの学校」「列島誕生 ジオ・ジャパン2 第1・2回」「三千万年の旅 列島誕生ジオ・ジャパン」「激闘 シャチ対シロナガスクジラ~巨大生物集う謎の海域~」「ワイルド東京」)を制作し、大きな反響を呼びました。この他にもETV特集「心

が躍る生物教室」など様々な特集番組を制作しました。

2018年から本放送が始まった4K・8K番組制作にも積極的に取り組んでいます。3つの定時番組と主な特集番組で4K一体化制作を進めています。8Kについては「新絶景タイムスケイプ」「ニッポンの里山 ひと皿の桃源郷」「新・映像詩 里山」（15分×4本）「8Kドローンで火山防災に挑む」「厳冬 北海道の野鳥」を制作しました。また、自主事業としては、「チョコちゃんと一緒に課外授業」のオンライン配信や「劇場版ダーウィンが来た！第3弾」制作、慶良間諸島国立公園座間味ビクターセンターの展示映像制作などを行いました。

ドラマ番組部

総合テレビにおいては、4～5月がコロナ禍に伴う緊急事態宣言で各番組の撮影が一斉に延期となり、結果として通常より年度内制作が減少することになりました。土曜ドラマでは人生最後のホスピスを題材にした探偵ドラマ「天使にリクエストを～人生最後の願い～」1シリーズを制作するとともに73分×2本のスペシャルで横山秀夫原作の「ノースライト」を制作しました。「ノースライト」は一級建築士が自分の建てた家にまつわる謎を解きながら、家族の絆を取り戻し、友の思いを成し遂げるヒューマンドラマで、ギャラクシー月間賞を受賞しました。ドラマ10は医療ヒューマンドラマ「ディア・パシエント」や元弁護士と詐欺師のバディコメディドラマ「タリオ～復讐代行の2人～」の2シリーズを制作しました。土曜時代ドラマはBS時代劇の再編集枠として、「雲霧仁左衛門」シリーズや「子連れ信兵衛」シリーズなど高品質なラインナップで、新作と変わらず支持されました。特集ドラマでは、夏季特集で宮藤官九郎脚本のコロナ禍でのリモート撮影を生かしたSFコメディ「JOKER～2022パニック配信！～」や、昨年度の土曜ドラマの続編となる特集ドラマ「少年寅次郎SP」（前後編2本）を制作、バラエティに富んだ内容で視聴者から反響を得ました。毎年、脚本公募のグランプリをドラマ化する創作テレビドラマ大賞。受賞作「星とレモンの部屋」はひきこもりの男女を主人公とした現代的なテーマで、高く評価されました。

BSプレミアムにおいても制作数は若干減りましたが、レギュラーのBS土曜時代ドラマは「明治開化新十郎探偵帖」「赤ひげ3」の2シリーズを制作しました。「明治開化新十郎探偵帖」は若手人気俳優を主役に迎え、明治を舞台にした新機軸の

探偵ものとして、新たな視聴層を獲得し、「時代劇のNEP」の存在感を改めて示し、また定番人気シリーズ「大岡越前SP」を正月に放送し、時代劇ファンのニーズにもこたえることができました。プレミアムドラマでは内館牧子原作の「すぐ死ぬんだから」1シリーズを制作、主人公に共感する視聴者から多大な反響を得ました。単発ドラマとしては過去の名作のリバイバルドラマとして松本清張原作「黒い画集」や本格時代劇「13人の刺客」を制作し、それぞれ話題作としてBSプレミアムの視聴層拡大に貢献しました。また独自事業として、KADOKAWAが制作しNHKが予約購入したBS特集ドラマ「大江戸もののけ物語」を制作し、BS時代劇の枠で夏季に放送しました。

エンターテインメント番組部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「〇〇〇〇の演芸図鑑」「SONGS」を制作、Eテレでは「日本の話芸」「ムジカ・ピッコリーノ」「Eダンスアカデミー」「わらたまドッカ〜ン」「沼にハマってきいてみた」「古典芸能への招待」「芸人先生」を制作しました。BSプレミアムでは「新・BS日本のうた」「ザ少年倶楽部」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」を制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーと多様なジャンルで、ラジオファンのニーズに応える番組を継続して制作したほか「ディスカバー・ビートルズ」「大竹しのぶのスピーカーズコーナー」「ヤバイラジオ屋さん」などの新規番組を制作しました。

特集番組では、「アニソン！プレミアム！」「SONGS OF TOKYO Fes」「おげんさんといっしょ」「The Covers Fes」のほか「シュガー&シュガー」「ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージック」などを新たに開発し、2021年度につながる事業も生まれました。また「演歌フェス2021」「映画音楽はすばらしい！」「歌える！J-POPシリーズ」など展開の可能性が広がる大型特集番組を制作し好評を得ました。

4K8Kコンテンツの取り組みでは「4K洋楽倶楽部」「The Covers」などのほか、「伝説のコンサート」シリーズを新たに開発しました。過去映像にレストア技術を施すことで新たな創造価値を生み、視聴者から大きな反響を受けました。また「みんなのうた60」プロジェクトではアンバサダーに井ノ原快彦さんを迎え放送開始60年を特集番組で紹介しました。名作誕生秘話や視聴者リクエストによるセレクション放送により1年をかけてアニバーサリーイヤーを応援する一連の事業も受託しま

した。

独自事業では、日本文化を発信していく「日本博」の中継演出業務のほか、能を小中学生に親しんでもらうための学習コンテンツの制作も受託しました。

以上のほか、「新・BS日本のうた」での開催局のローカル番組やイベントへの協力、「NHK紅白歌合戦」への演出協力、「花は咲くプロジェクト」などで、NHKグループの一員としての使命を果たす事業も担いました。

国際番組部

国内外の制作プロダクションや、NHK Cosmopedia America (NCMA)、NHK Cosmopedia Europe (NCME) など海外現地法人、そして北京テレビ等の海外の放送局などと協力し、国際的な番組を制作しました。しかし世界のコロナ・ウィルスの広がりにより、海外での多くの番組制作が中断、または延期を余儀なくされました。特に海外現地法人での大リーグ中継の放送縮小や、国際放送局のNYスタジオの運用が開始できないなど、大きな影響を受けました。

そうした中、BS1特集では「医療現場の叫び」「看護師たちの闘い」「武漢ICU医師たちの闘い」など、コロナ関連番組を多数制作しました。また、NHK Worldでは、定時番組「Direct Talk」「Global Agenda」「Deeper Look from NY」などで、コロナの状況を世界の専門家へのインタビューや討論をオンライン形式などで世界に発信し、その一部は、海外の放送局からも放送されました。またNHKスペシャル「高野山 千年の襖絵」では、コロナ禍でも歴史を見据えた芸術は人々の心の支えとなるというメッセージも発信しました。その他、総合テレビでは「崖の上に街があった」「水辺の街の不思議な秘密」のヨーロッパ絶景紀行シリーズ、Eテレでは「イギリスで一番美しい村」の10本シリーズなどを放送しました。

また、BSプレミアムでは「まいにち養老先生ときどきまる」「今夜は絵顔で眠りたい」などの準レギュラー番組を放送した他、BS4K、8Kでは「ヨーロッパ大縦断 鉄道の旅」「ビューティフル・アルプス」「謎の民 バイキング」「空旅中国 黄河」「極彩インド」「美しい村の理髪店」などを制作し、多くの再編集番組も制作・放送しました。

その他、国際共同制作を支援するフォーラム「Tokyo DOCS」や、サンダンス・NHK国際映像作家賞の事務局を担うなど、幅広い活動を行いました。

アニメ事業部

総合テレビでは「キングダム3」を制作。新型コロナで制作が遅れ5月で中断になりましたが（21年4月より再スタート）、大ヒットコミックの7年ぶりのアニメ続編が話題となりました。

Eテレでも、上期の新作「メジャーセカンド2」の制作が遅れ、再放送を挟みながら11月まで放送されました。中学生になった主人公たちが野球に青春をかける王道ストーリーは、小中学生男女からその親世代まで幅広い支持を受けました。

Eテレ平日夕方は、長寿アニメ「忍たま乱太郎」「おじゃる丸」「わしも」を制作しました。引き続き、Eテレの中で高い視聴率を得ています。

また、「ログ・ホライズン 円卓崩壊」を中国と共同制作しました。こちらも6年ぶりのシリーズ新作として、国内外のファンを中心に注目されました。

さらに、高視聴率が定着している「おしりたんてい」に加え、同様にベストセラー児童書が原作の「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」と「かいけつゾロリ」の新作シリーズも制作し、原作読者の小学生たちから人気を集めました。

語版展開部

海外ドラマでは、韓国ドラマ「コウラン伝 始皇帝の母」（BSプレミアム）、「大草原の小さな家」（BS4K）、「アンという名の少女」（総合テレビ）、「ファインド・ミー パリでタイムトラベル」、アニメ「おさるのジョージ」（Eテレ）などの日本語吹き替え版を制作しました。

海外ドキュメンタリーでは、「BS世界のドキュメンタリー」（BS1）、「地球ドラマチック」の日本語版を、映画関連では、BSプレミアムシネマの映画字幕に加えて、4Kシアターや8K版「ウエスト・サイド物語」、8K邦画「帰郷」を制作しました。さらに「世界ふれあい街歩き」、「COOL JAPAN」の英語版を作成してNHK番組の海外発信に貢献しました。ほかに、NHKの多岐にわたる番組の解説放送を約1,500本制作しています。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント

「ロボコン」はコロナ禍でリアル実施が困難となり、全てがオンラインイベントとしての開催となりました。「学生ロボコン」は、交流競技会は3校のみの参加となり正式大会は中止、自主事業として代替イベント「オンライン！学ロボ FESTIVAL」を8月に実施し、27校が参加しました。続く「ABUロボコン フィジー大会」も正式大会は中止となり、12月に代替イベントをオンラインで実施しました。11か国21校をオンラインで繋ぎ、各チームが収録した競技VTRを披露、ロボットのこだわりポイントを紹介しました。

「高専ロボコン」のオンライン大会は、「だれかをハッピーにする」というテーマ以外にルールがない初めての試みで、まさに「アイデア対決」となりました。8つの地区大会に始まり、11月29日の全国大会まで、バーチャル会場に集い、音楽を奏でるロボットやシンクロナイジングを表現するロボットなど、バラエティ豊かな競い合いのすえ、小山高専が優勝しました。その模様は12月26日15時からNHK総合テレビで放送されました。

各種「フォーラム」もオンライン配信として行われました。医療フォーラムはライブ配信ならではの双方向性を生かし、質問や意見を受け付ける新しいスタイルを確立させ、病床にいる当事者や全国からの観覧も可能となり、好評を博しました。開催回数は「がんフォーラム」3回、「認知症フォーラム」2回、「フォーラム超高齢社会を生きる」1回、新規に「遺伝子治療フォーラム」を1回開催しました。その他「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム2020」「都市再生シンポジウム」もオンライン配信にて実施しました。

東京大学よりオンラインフォーラム「Tokyo Forum 2020 Online」を受託し、12月3、4日に実施。北米、欧州、アジア、アフリカなど世界各国を結ぶ新しいイベントの形として成果をあげました。

人気の2.5次元ミュージカル「ミュージカル 忍たま乱太郎」は、4、5月に予定していた第11弾公演がコロナ禍で中止になりましたが、10月に東京・愛知県春日井市で上演しました。1月には大阪で「学園祭コンサート」を上演し、来場者に楽しんでいただきました。

19回目となった「東京JAZZ」もコロナ禍のため、初のオンラインでの独自開

催となりました。5月23日、24日で合わせて12万人の視聴者を得、およそ50か国の人々が視聴しました。

2013年にスタートした震災復興イベント「はるか プロジェクションマッピング」は、3月13日に宮城県名取市で実施。荒天により本番は中止となったものの、事前収録映像を配信し、ウォータースクリーンを使った映像投影など高い技術力が評価されました。

11月17～20日に実施された「NTT R&Dフォーラム」では、基調講演や特別セッションなどイベントプログラムのステージ演出、上映用映像制作、オンライン配信を受託。来場者および視聴者から好評を得ました。

展示事業

「麒麟がくる 大河ドラマ館」は、前年度から引き続き京都府亀岡市、岐阜県岐阜市、可児市、恵那市など過去最多となる7館で展示・リニューアルを行いました。

「青天を衝け 大河ドラマ館」は、埼玉県深谷市で2月16日、東京都北区で2月20日にオープンしました。

環境省より慶良間諸島国立公園座間味ビジターセンターの映像制作業務を受託。NEP自然科学番組部が開発した12K360度水中カメラで撮影したVR展示をはじめ、座間味の自然を紹介する展示映像を制作しました。

東日本大震災から10年を迎えた3月には、オーストリアのアスルエレクトロニカ・フューチャーラボと連携し、NHKの8K技術を活用した新たなメディアの可能性を展望する映像展示をNHK渋谷プラスクロスで開催しました。

「ワープステーション江戸」は、4月から一般公開のないロケ専用施設となりました。コロナ禍でロケ使用が中止となる時期もありましたが、再開後は大河ドラマ「青天を衝け」、連続テレビ小説「エール」のほか時代劇やミュージックビデオなどで使用されました。

映像ソフト制作

SDやHDの映像素材を4K並みの高画質映像に変換するビデオレストア事業では、NHKが過去に放送したドラマやコンサート等を高画質化しました。なかでもNHK総合で1月28日に放送された山口百恵ラストコンサート（1980年）は、

多くの反響を呼びました。

8Kカメラで撮影した舞台やコンサートの映像を、スマホやタブレットで自由自在に拡大・縮小・スクロールして視聴できる「8Kオペラグラス」を開発。文化庁の「収益力強化事業」に採択され、2.5次元舞台の映像を配信しました。

8K映像関連では、BS8Kなどで10月に放送された「忍たま乱太郎と行こう！ につぼん宇宙旅」の制作、全国各地のホール等でNHKの8Kコンテンツを上映する8K放送普及促進事業などを受託しました。

(3) <地域での番組制作、事業>

地域番組部

地域番組部は全国を対象とする制作が多いため、コロナ禍の影響を大きく受けた1年でした。その中で感染予防対策を徹底し、知恵と工夫を重ね制作を続けました。

定時番組ではコロナ禍で、屋外スポーツの釣りに注目が集まりBSプレミアム・BS4K「釣りびと万歳」の視聴が向上しました。50代男性など現役層視聴も伸び、通常30分を1時間に拡大するスペシャルも放送しました。BSプレミアム・BS4K「につぼん縦断こころ旅」はコロナ禍で7週休止になる苦境の中、朝版、夜の「とうちゃこ」版ともによく見られ、暗くなりがちな世相に、ほっと一息できる時間を提供しました。BSプレミアム・BS4K「イッピン」、総合テレビ「うまいッ!」、総合テレビ「ごごナマ(木曜)」、総合テレビ「あさいち」の中継コーナー「おでかけLIVE」も、リモート収録やテーマ別の総集編、出演者の工夫など、新たな演出を柔軟に行い好評でした。首都圏地域放送の「ひるまえほっと」は、コロナの悩みに答えるコーナーを4月からいち早く放送、秋からはNHKの首都圏局発足に伴い、従来NHKが担当していたコーナーも受託し、業容が広がりました。

特筆すべきは「東日本大震災10年」への貢献です。従来から担当していた定時番組の「証言記録」「あの日 わたしは」に加え、特集の「証言記録スペシャル いつか来る日のために“あなたを守る“体験者の言葉」や「街は生き続ける～「ふるさとの記憶」から見つめる被災地のいま～」など様々な角度から震災の経験と教訓と未来への希望・備えを伝えました。こうした蓄積が2021年度総合テレビの防災・減災の新番組「明日をまもるナビ」の受託につながりました。

コロナの特集も手掛け、BS1スペシャル「禅×21世紀」、「江戸の知恵に学べ～

コロナ時代を生きる術」、BS1「笑いでコロナを吹き飛ばせ」を放送しました。

特集シリーズは新たに、BS1「大相撲どすこい研」と総合テレビ「ヒラメキ！地域発」を開発、国際放送・BS1・BS4K「スピリチュアルエクスプローラーズ（日本語版はスピリチュアルジャパン）」、BS1「ザ・ディレクソン」を継続して放送しました。開発特集はBSプレミアムで「離島にポツンッ！ラストファミリー物語」と「せりざんまい～落札者密着物語～」を放送しました。

地域事業部

要員を増加して支社事業の支援強化を図りました。支社がNHKから受託している公開番組・イベントに関する連絡・調整や、支社の取り組む自主事業への協力、支社によるコンペ参加への支援のほか、事業本部はじめ本社各部署と支社の連携を積極的に促進し、新たな事業展開を進めました。特に文化庁委託事業「チョコちゃんといっしょに課外授業 放課後編 学校でプロジェクトマップング」では、本社関係部署および東北支社と密に連携して実施し、震災10年を迎えた宮城や福島の方々にNEPならではの技術とサービスで大いに元気づけました。

近畿総支社・四国支社

全国放送番組のうち、趣味・実用番組は「きょうの料理」、「すてきにハンドメイド」、「まる得マガジン」、四国支社は「俳句王国がゆく」「夏井いつきのよみ旅」などを制作し、文化・情報番組は「歴史秘話ヒストリア」、「こころの時代」、芸能番組は「バラエティー生活笑百科」、「にっぽんの芸能」、「日本の話芸」「古典芸能への招待」、また国際放送番組では「Core Kyoto」、「Train Cruise」などを制作しました。情報番組は「ごごナマ」（金曜13時台）を制作しました。このほか展覧会と連動した「8K特集 皇室が守り続けた“いのちの美”」を放送しました。さらに特集番組として「元旦特集・超体感！ニッポン創世神々の道をたどる～日本書紀1300年出雲・高千穂 神秘と絶景の参詣道」、「スパイスカレー聖地大巡礼」、また災害関連番組「東日本大震災10年特集 被災地をつなぐ心の歌」を提案・制作しました。8Kへの取り組みでは、宝塚歌劇全5組の公演を「宝塚スペシャルシート」として放送したほか、その映像素材を利用した「宝塚スペシャルラウンジ」をシリーズで制作・放送しました。さらに、大阪拠点放送局機能強化の一環として、2021年

度に向けて「京コトはじめ」「ニュースきん5時 KINGOJIN」のパイロット版の制作を行いました。

地域番組では、近畿において関西向けの新たな放送サービス、視聴層開拓を目指し「関西“愛”認定バラエティー～ちゃうんちゃう?」「中川工場」「関西人のカベ」「矢部の知らないやべ～関西」など多数の開発番組を企画し、定時化へ向けて制作を行いました。四国支社は、新番組・毎週土曜朝のナマ情報番組「ギュッと！四国」を制作。「軽四キャンピングカーがゆく」（四国）は、3年目を迎え看板番組として定着しました。またコロナ禍でも、リモートを活用した「つながるテレビ」「ONE TEAM先生の熱血自撮り日記」（四国）などの人々の絆を描く特集番組を制作しました。

NHKからの受託事業は、新型コロナ感染症拡大防止の観点からほとんどの公開番組やイベントが中止または無観客実施となりましたが、一部は観客を3割程度まで減らして、検温や消毒等の十分な対策を行い実施しました。年度末には、人の接触を極力減らし、タブレット端末のみの共有で実施できる「挑戦！NHKデジタル防災サバイバル」や「挑戦！NHKファミリー防災サバイバル」を新規開発し、コロナ禍の中でも工夫しながら防災関連事業を継続しました。

四国支社では、松山局開局80年記念のオープニングイベント「お堀りでholiday! ピクニックライブ」を3月に開催。松山城下の公園に屋外ステージを架設し、愛媛の歴史を貴重な映像で振り返るクイズバトルや、車中泊避難を楽しく学ぶイベントなどを2日間にわたって実施しました。

自主事業では昨年度に引き続き、大河ドラマ「麒麟がくる 京都亀岡 大河ドラマ館」の運営、および「福知山光秀ミュージアム」、「びわ湖大津光秀大博覧会」の展示から撤収業務まで遅滞なく遂行しました。また「文楽を中心とする古典芸能振興事業」や「日本書紀完成・藤原不比等没後1300年記念イベント」では、コロナによる直前の公演中止や無観客収録等柔軟に対応、クライアントから大いに感謝されました。大阪・関西万博会場の整備状況を経年で記録する事業を前年に続いて博覧会協会から受託し、会場をドローンにより上空から撮影しました。

新規映像受託では全国高校駅伝開催に合わせ、特別協賛社でもある「SGホールディングス陸上部PR映像」を受託する等、新規事業開拓にも積極的に取り組みました。

展覧会事業は、年度前半は新型コロナ感染症拡大防止の観点から、予定していた

展覧会を中止したり延期したりしました。年度後半は事前の日時指定でのチケット販売など、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な工夫を行い「皇室の名宝」（京都国立博物館）、「埋忠<UMETADA>桃山刀剣界の雄」（大阪歴史博物館・刀剣博物館）を開催しました。「皇室の名宝」は8K番組に展開。「埋忠」は展示映像に加え、刀剣のVR映像を制作したほか、関連イベントの展開で想定以上の集客につなげ経営面でも成果を上げました。NHK大阪ホールの管理・運營業務は、新型コロナウイルスの影響でNHKの公開番組や外貸しによる公演がほぼ全面中止となりましたが、その間を利用してホール設備の保守や更新を重点的に行いました。

中部支社

受託番組は、全国放送として「世界はほしいモノにあふれてる」、「釣りびと万歳」、「うまいッ!」、「趣味の園芸」、「あさいち・おでかけLIVE」、「歴史秘話ヒストリア」、また積極的に番組提案をして「ハートネットTV～在留フィリピン女性の駆け込み寺」を制作しました。地域放送としては昼前情報番組「さらさらサラダ」や音楽ライブ番組「Ut a - T u b e」、報道番組の「おはよう日本・土曜ローカル～ウィークエンド中部」や夕方ニュース番組「まるっと!」特集リポート&企画中継のほか、「中部ネイチャーシリーズ」（4K制作）や「第18回全日本学生落語選手権策伝大賞」などを制作しました。また、コロナ禍の中、在宅の子供達向けに「絵本のおくりもの新美南吉／こぐまちゃん」を制作し好評を得ました。地域局支援では、北陸3局向けに「北陸スペシャル・おもてなし北陸」を制作しました。

受託事業では、名古屋放送会館公開イベントで「NHKパパママフェスティバル」や「Nスポ! NAGOYA 2021」、域内受託業務で「のど自慢」や「新BS日本のうた」、域内支援業務として地域局の「のど自慢」などを手掛けました。またデジタル部門では、名古屋拠点放送局や岐阜放送局のデジタルサービス制作業務を、データ放送制作業務では、域内7局のデータ7項目ニュース更新業務（NEWS WEBを含む）、富山放送局の双方向データ放送改修やデータ情報アーカイブス管理業務なども実施しました。

自主事業では、「SixUnlimited 全国コンサートツアー」、「The 備前展」、「大河ドラマ館関連事業」、「花總まり シンフォニックコンサート」、「第18回全日本学生落語選手権策伝大賞」、東根市「まなびあテラス」美術展、などを企画運営実施しました

が、新型コロナウイルス関連のため「九代 玉屋庄兵衛展」は延期となり、5月に実施を予定していた「おかあさんといっしょファミリーコンサート」は中止となりました。デジタル部門では、「防災ほっとメール」や「地域映像アーカイブス」（図書館など公共施設）、「自治体等ホームページ保守管理業務」なども手掛けました。

中国支社

全国放送では、新型コロナ感染症が拡大する中、西日本豪雨の被災地で始まった分散避難などの取り組みを伝える『明日へ つなげよう～逃げ遅れゼロの町へ』を制作したほか、『人情不動産屋の日々～家探しの現場・1年の記録』では、高齢者や障害者など家を借りるのが難しい人たちのために家探しを続ける不動産屋の奮闘を伝えました。

地域放送では、お昼前の生活情報番組「ひるまえ直送便」のほか、「松崎しげるとももクロのくろ旅」（金曜夜4本）や「ドラフト直前SP！カープ県民大会議」などを受託しました。

受託事業では、「被爆75年8Kシアター特別上映会」や「NHK de ミチカにアート」などの会館公開イベントを実施したほか、自主事業では、「JR九州安全創造館展示映像」の制作を手掛けました。

九州支社

全国放送番組では、定時番組の「うまいッ!」、「あさいち」、「釣りびと万歳」のほかに、アフガニスタンに生涯を捧げた中村哲医師を描いた特集番組「理屈やなかりょうもん ～医師・中村哲73年の軌跡～」を制作しました。

地域放送番組では、生活情報番組「はっけんTV」、紀行番組「アサタビ!」のほかに、コロナ禍の動物園を飼育員が撮影した映像で描いた「飼育員は見た!動物たちの決定的瞬間」、旅ランの楽しみを伝える番組「RUN! RUN!九州沖縄」、自閉症の画家と家族の心の軌跡を描く「実感ドドド!絵が自由をくれた ～自閉症の画家と家族～」、NHK福岡局開局90年企画「NHKじぶんニュース」などの番組を制作しました。また、コロナに負けずに頑張る地域の人々を紹介する特集番組「たからびとシアター」では、観客が自家用車に乗ったまま参加するドライブインシアター形式のイベントを実施・収録しました。

受託事業では、観覧者がオンラインで参加する公開番組「六本松ベース」、「爆笑オンエアバトルF」をNHKから受託・運営しました。さらに福岡と東京をオンラインでつなぎ生配信する「8K Campus」を運営しました。独自事業では、中世にルーツを持つ5つの民俗芸能を紹介する「福岡市民俗芸能公演」を福岡市から受託・実施しました。

東北支社

東日本大震災から10年を迎えた今年、「映像記録 東日本大震災①発災からの3日間 ②1年の苦闘（BS1 3月7日）」「バスで！列車で！篠山輝信×震災10年の東北旅（BSプレミアム 3月11日）」、「ふるさとの記憶2021～宮城・南三陸町～（BSプレミアム 3月3日）」「被災地からの声（総合毎週土 10：06～30）」など被災地を見つめた番組を数多く制作しました。

このほか全国放送では、「うまいッ！」「釣りびと万歳」「あさいち・シェア旅」「明日へつなげよう 言葉にならない思いを言葉に～詩人・和合亮一の授業 PART5（総合2月21日）」などを制作しました。

地域放送では、トーク番組「大好き東北♡定禅寺しゃべり亭（総合毎週土 11：10～54）」、昼前情報番組「もりすた（総合月～金 11：45～12：00）」の他、金曜夜間でオリパラ関連企画「みちのく頂をめざして」「みちたん ああ！すばらしきセカイ」「あなたの町の映像アルバム」、などを制作しました。

受託事業では、「仙台フィル未来につなぐコンサート（福島県楡葉町3月22日）」「NHK東北民謡コンクール優勝大会（NHK仙台拠点放送局3月28日）」「NHKのど自慢（宮城県南三陸町3月7日）」「上方演芸会（宮城県大和町10月16日）」などを実施、自主事業では「岩沼市震災記録映像の制作」を受託しました。また「チコちゃんといっしょに課外授業・学校でプロジェクションマッピング」を3カ所（福島県相馬市2月24・25日、宮城県東松島市26日）で実施しました。

北海道支社

番組では、コロナ禍での音楽療法士の活動を追った地域特番を全国放送に展開した「ハートネットTV」のほか、定時番組「さわやか自然百景（10本）」や「うまいッ！」「あさいち・おでかけLIVE」「釣りびと万歳」など。地域放送では札幌局

新会館移転関連で「高校生マイナークラブフェス」「SAPPORO今昔物語」のほか、「北海道民！フカボリサーチ（5本）」「いくぞ～！北の出会い旅（3本）」、昼前情報番組「ひるまえナマら！北海道」や「おはよう北海道・土曜プラス」、610「ほっとニュース北海道」など。また国際放送で「Wild Hokkaido!（18本）」を制作。数多くの番組を通して北海道の魅力や課題を発信しました。

受託事業では、コロナ禍でイベント中止が相次ぎましたが、新会館移転関連で制作本部と連携した「1972 SAPPORO VR」のほか、「マイナークラブフェス」に加え、「オーケストラでつなぐ希望のシンフォニー」「はぴ☆ロボ自慢」などを実施。自主事業では「釧路町難解地名映像コンテンツ」制作を手掛け、地域に貢献しました。

（４）＜映像ソフト販売＞

映像ソフト商品市場は依然厳しい状況でしたが、2020年度は通販が好調でヒット作品にも支えられ、前年度を上回る成果を挙げることができました。

「沢田研二 BEST OF NHK」は、全編NHKアーカイブスを活用した商品。12月発売以来、通販で好調に売上を伸ばしヒット商品となりました。

2020年度の大河ドラマ「麒麟がくる」、連続テレビ小説は「スカーレット」「エール」を発売しました。その他ドラマでは「みをつくし料理帖スペシャル」「ファーストラブ」「彼女が成仏できない理由」「一億円のさようなら」「螢草 菜々の剣」「ディア・ペイシエント」、また通販専売商品として「少年寅次郎」「はね駒」などを発売しました。

（株）NHKエデュケーショナルの協力により、「おかあさんといっしょ」では「最新ソングブック あさペラ!」「シーズンセレクション うたのアルバム」、「いないいないばあ!」では「ワンワン☆ダンス」が好調でした。

ドキュメンタリー関連では、「BS1スペシャル 独占告白 渡辺恒雄」「三島由紀夫×川端康成 運命の物語」のほか、「宮沢賢治 銀河への旅」「新型コロナウイルス 医師が伝えたいこと」「劇場版ダーウィンが来た！恐竜超伝説」「欲望の時代の哲学2020 マルクス ガブリエル」、そして「やまと尼寺精進日記」などをリリースしています。

NHKのアーカイブ映像からは「三山ひろし うた語り」「access LIVE in 武道館」「ZARDよ永遠なれ」などのアーティスト系を商品化。また「図鑑MOVE」は「大昔の生きもの」ほか全4商品を新たにラインナップに加えました。また、「八重の桜」「軍師官兵衛」「あぐり」「ふたりっこ」「どんど晴れ」「慶次郎縁側日記」「たけしくんハイ!」、「世界ふれあ

い街歩き」などを通販限定価格で販売したほか、「シークレット・ガーデン」「人形歴史スペクタクル平家物語」「連続人形活劇 新・三銃士」「麗姫と始皇帝」などを新価格版として再発売し好評を得ました。

教材では、次年度からの中学校学習指導要領の改訂に際して、8事業を受注し、納品しました。

新規発行ディスク数は、トータルで628ディスク（昨年701ディスク）となりました。

（５）＜番組提供＞

放送事業者への番組提供

＜チャンネル銀河＞＜AXNミステリー＞＜LaLaTV＞＜時代劇専門チャンネル＞＜BS12＞＜キッズステーション＞ など24チャンネルに対し、大河ドラマや連続テレビ小説、アニメ、また、韓国ドラマや欧米ミステリードラマなど、合計196タイトルを提供しました。ケーブル局には、42局へ連続テレビ小説「あさが来た」「梅ちゃん先生」など83タイトルを提供しました。

全国4か所で地域のケーブルテレビ局向けに、経営や番組制作などのセミナーを実施し、合計で89人が受講しました。

VOD事業者への番組提供

＜AMAZONプライム＞＜U-NEXT＞＜Netflix＞＜ドコモ・アニメストア＞＜Hulu＞＜TELASA＞など、全29事業者にアニメ番組や幼児番組、韓国ドラマなど海外番組含め256タイトルを提供しました。一昨年度立ち上げた「NHKこどもパーク」は引き続き順調に会員数を伸ばしました。

大学への番組提供（アーカイブス事業）

コロナ禍の中、ニーズが高まるオンライン授業などに活用するために、NHKで放送したドキュメンタリー番組を大学に提供する事業を実施しました。大学が配信してオンライン授業で活用するために、NEPが必要な権利処理を行い番組を提供します。2021年度から4つの大学（学生数合計11万3500人）で111本の番組の視聴が可能になります。新しい学びの機会の提供、また大学生など若い世代にNHKの良質な番組に触れてもらう機会を増やす意味でも、今後成長させたい事業

としてスタートを切りました。

素材提供事業

2020年4月7日の緊急事態宣言の発出による出社制限等の状況を受け、関連各所と協議の上、5月末まで素材受付窓口業務を休止しました。加えて東京オリンピック・パラリンピックが延期されたことにより、6月の受付再開後の売上にも影響が及びました。

一方、4K映像の外部提供に関しては、NHK関連事業局、知財センターアーカイブス部との連携のもと必要機材等の整備、環境構築が完了し、2020年9月より提供を開始しました。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年通り行っており、番組の利活用に貢献しています。

(6) <キャラクタービジネス>

ライセンス事業部では、コロナ禍の影響を大きく受けたものの、展開事業、著作権許諾事業は一定の成果を上げることができました。

「チョコちゃんに叱られる！」では、安全を確保しながら、5つの地域でイベントを実施、デジタル展開の「yahoo着せ替え」、「LINEスタンプ・LINEゲーム」などに使用され、好評価をいただいています。出版については、コミック誌の連載をはじめ、クイズ・教育系の関連書籍も多く出版されました。

幼児番組「いないいないばあっ！」では、大手アパレルメーカーとの取り組みや、日販品メーカーのキャンペーンなどで、展開拡大を続けています。また、来年度の放送開始25周年に向けて、専門店などの売り場と連携した展開が始まっています。

さらに大河ドラマ「麒麟がくる」では番組タイトルロゴを使用したいという要望に応え、合わせて30社80種の商品に提供しました。

商品販売事業では、コロナ禍で幼児番組関連イベントが中止になり、通年のイベントグッズ販売に大きく影響が出ましたが、新しい市況に合わせ、Eコマースでの販売を新しくスタートし、幼児番組関連イベントと連動した通販も始めています。

(7) <権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「ファインド・ミー ～パリでタイムトラベル～」 「名探偵ポワロ」 「グッド・ファイト シーズン2」 「アンという名の少女」 「キャサリン スペイン王女の華麗なる野望」 など、またNHKで初めての中国歴史ドラマ「コウラン伝」が放送されました。近年注目されているトルコドラマ「新・オスマン帝国外伝 キョセム」を購入、販売を開始しました。ドキュメンタリーでは、「潜伏10年 北朝鮮・武器ビジネスの闇」 「アンネ・フランク～生存者の証言とSNSで綴る『日記のその後』～」 「武漢の24時間 感染症ロックダウン 中国の記録」 「さまよえるWHO」 「トランプ対バイデン ～2020年 アメリカの選択～」 「カラーでよみがえるアメリカ シーズン3」 「中国 デジタル統治の内側で～潜入・新疆ウイグル自治区～」などを放送。ライフスタイルでは、「ソーイング・ビー シーズン3・4」 「レイチェルのおいしい旅レシピ」、クラシック音楽番組は「ザルツブルク音楽祭 歌劇『コシ・ファン・トゥッテ』」 「プロムス2020 ラストナイト・コンサート」 「ベルリン・フィルのジルベスターコンサート2020」をはじめとする数多くの番組を購入し、NHK等で放送され好評を博しました。

海外への番組販売では、アニメが人気を博し、アニメ「ログ・ホライズン 円卓崩壊」 「ログ・ホライズン 第1・2シリーズ」 「ツバサ・クロニクル」 「十二国」などが販売されました。ドラマでは、アジアを中心に根強い人気の連続テレビ小説は「なつぞら」 「あさがきた」 「まんぷく」 「スカーレット」 「エール」、大河ドラマは「麒麟がくる」など、また連続ドラマでは、「彼女が成仏できない理由」 「いいね！光源氏くん」 「これは経費で落ちません」など多彩な作品が販売されました。ドキュメンタリーは、「ワイルドライフ」 「恐竜超世界」 「フランケンシュタインの誘惑」など自然番組、科学番組を中心に販売されました。教育番組では、「考えるカラス」 「デザインあ」などが販売されています。

(8) <NOD事業>

NHK オンデマンド受託事業

NHK オンデマンドの権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信までの一連の業務を円滑に実施すると共に、各種無料配信や即日配信など多様な配信サ

ービスに対応しました。

NODは今年度、これまでの「見逃し番組の見放題パック」「特選見放題パック」2パックのサービスから、1パック（見逃し+特選）にサービス内容を変更しています。お客様の視聴は年間を通じて非常に好調でした。朝ドラ「エール」「おちょやん」、大河ドラマ「麒麟がくる」のほか、「いいね！光源氏くん」「ここは今から倫理です。」などもよく見られ、有料会員数、視聴数、売り上げとも過去最高を記録しました。

このほかデジタルセンターの依頼により、NHKプラスの原盤制作、TV e r 提供番組の原盤制作も行いました。

（9）＜受託映像国際放送等＞

海外現地法人

当社はNHKから、欧米での映像国際放送と番組制作支援業務を受託しています。これらはNHKの関連団体であるNHK Cosmopedia America（NCMA）とNHK Cosmopedia Europe（NCME）に再委託して実施しています。

このうちNCMAには、新型コロナ禍の中にもかかわらず活躍を続けるエンジェルス・大谷選手やヤンキース・田中選手の試合などMLBの中継制作に加え、BS1やNHKワールドJAPANの定時番組や特集番組などを委託し、現地に拠点を持つ強みを生かしてNHKの番組制作を支えました。またNHK番組を中心に民放番組や日本の映画も入れて編成する24時間日本語有料チャンネル「TV JAPAN」を通じて、北米地域を対象に1日平均5時間、NHKからの「邦人向け国際放送」も委託しました。

ヨーロッパのNCMEにも、NHK番組の制作とコーディネート業務を委託し、「ヨーロッパ・トラムの旅」や「ビューティフル・アルプス」などの8K番組のほか、BSプレミアム「ワイルドライフ」や国際放送のNHKワールドJapan向けなど多岐にわたるコンテンツの制作を行いました。また欧州、北アフリカ、中東の約60カ国に向けてNHK番組を中心とした24時間の日本語有料放送を運営するJS TVチャンネルを通じて、「邦人向け国際放送」も委託しています。

さらにタイでも、当社が出資しているNippon Production Service（NPS）を通じて、NHK国際放送の取材・制作の支援や、現地へのNHK番組の販売など、幅広い分野で業務を推進しています。

(10) <業務改革への取り組み>

業務改革推進室

業務改革推進室は、社員の創造性を最大限発揮するために自社のあらゆる仕組みをゼロベースで見直すことを基本方針として掲げ、社長直轄のプロジェクトとして発足しました。推進室を事務局とし、各部署から兼務として選任した約30名の社員が下記5つの分科会を推進しました。

1. 新システム：複数の旧システムを統合し業務の標準化・効率化を実現させるため、基幹システムの刷新を企画し、要件定義を実施しました。
2. 管 理 会 計：新システムの稼働に合わせ、適切な損益管理の実施と経営のスピードアップに資する新しい管理指標の検討、提案を行いました。
3. 組 織 構 造：取締役が経営課題に専念し、執行役員が担当事業部の内部統制と利益最大化に責任を持つために、本部制廃止とセンター制の導入を提言しました。
4. 人 事 評 価：会社目標と個人目標の関連づけと、考課の公平性を高めるための指標を検討し、「新人事考課ガイドライン」を作成しました。
5. Quick Win：全社員を対象としたアンケートの結果から、優先度の高い課題として「会議体の見直し」「在宅勤務制度の見直し」を実施しました。また、「申請手続きの簡素化」「タクシーアプリの導入」を行いました。

(11) <業務支援>

アーカイブス事業

NHKの放送番組を映像・音声素材、データとともに登録・保存する業務、また保存されているコンテンツの活用に関わる業務を行っています。

4K・8Kのアーカイブス映像の需要が高まる中、4Kクリーンの受入業務や完プロ登録・素材の一括登録に新たなシステムが導入され、ユーザーへの要望に応えられるよう取り組みました。そして番組データ入力や資料添付、同時配信に対応した権利情報整備など、コンテンツ価値を高めるためのメタデータ整備にも積極的にすすめました。NHKアーカイブスに装備された「AI顔認識システム」は、東京オリンピックを目標に、スポーツ選手の顔情報を覚え込ませる作業を中心に行い、教師データの充実に努め、メタ自動入力の精度向上を目指しました。

アーカイブス未保存の番組テープを広く探し出し保存化する番組発掘業務では、テレビでは特に音楽番組や「おけいこ」番組、アニメ「マルコポーロの冒険」などを発掘。音声では70年・80年代のラジオドラマで大きな成果をあげ、テレビラジオ合わせて1364番組を新たに保存・登録しました。

「番組公開ライブラリー」施設での番組公開、公募により選ばれた大学研究者に保存番組を閲覧利用していただく「学術利用トライアル」運営も、コロナ禍で休館や閲覧中止の時期はありましたが、継続して進めています。

アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した番組制作も行いました。「プレミアムカフェ」(BS P)「あの日あのときあの番組」(GTV)に加え、「Eテレ プレーバック」6本を制作。さらに16ミリフィルムを高画質化してBS4Kで放送する取り組みは、2018年度スタートの「新日本紀行」に加え、「シルクロード 第2部」「未来への遺産」も放送が実現しました。さらにSD画質のビデオ番組をNEPレストアシステムで4K化し、次年度の放送のための「編集済素材」として、NHKアーカイブスに納入する事業にも取り組み、4K放送の可能性を広げるとともに、NHKアーカイブスの存在感を示しました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構(a R m a)、J A S R A Cなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD・VOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務、商標出願管理業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部からの委託により、インターネットに無断で投稿された動画の削除を当該サイト運営者に依頼するなど番組の不正利用対応を行い、さらに同センターから国際契約作成業務を受託し28件の契約等に対応しました。

この他、NHK関連事業局からの委託により、一般事業者へのNHK番組のまると提供に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行いました。(新型コロナウイルスによる緊急事態宣言中は受付を休止または時間短縮を実施)

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「プロフェッショナル 仕事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「麒麟がくる」「青天を衝け」、連続テレビ小説「エール」「おちょやん」などのドラマ、「調査報告 クルーズ船～未知のウイルス 闘いのカギ」「ミラクルボディ 驚異の人体」などのNHKスペシャルについて、制作部門と連携して、放送及び配信、海外発信などを含む範囲で権利者と交渉を行い権利を確保し、併せて権利情報のデータ作成も行いました。同じく著作権・契約部からの委託である「常時同時配信（NHKプラス）に向けたサポート業務」として制作現場からの権利処理に関する相談に電話とメールで対応し、また委託元と協力して、映画会社、新聞社等の大手権利者と「NHKプラス」での著作物使用について包括的交渉を行いました。

また、一部の学校放送番組について、再放送や展開のために権利情報を調査し整理する業務を、NHK制作局から受託しました。

独自事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKおよび民放番組の海外番組提供のための権利処理業務を、また（一財）NHKインターナショナルより連続テレビ小説「なつぞら」の海外無償提供のための権利処理業務を受託しました。

商品管理業務

ブルーレイディスク、DVDのプレス製造数はヒット商品のほか‘巣ごもり需要’などにより、全体では、昨年度から微増の約175万枚となった。その中でも大河ドラマ「麒麟がくる」、連続テレビ小説「エール」では製造原価の圧縮を図り、利益率の向上に努め貢献しました。

ビデオ事業部内で情報共有し、商品在庫、原材料等の在庫を見直すと共に、適切な発注管理、廃棄・整理を法令遵守のもと行い、商品倉庫など倉庫料削減に繋げました。

（12）＜新規事業等への取り組み＞

イノベーション戦略室

イノベーション戦略室は今期から社長直轄となり、社内各部署と連携して、新規事業開発とDX推進に取り組みました。

新規事業開発としては、コロナ禍において、美術館、博物館、動物園などを実際に訪れることが難しくなるなか、そうした文化施設の魅力をオンラインで体験できる「チョコちゃんといっしょに課外授業」と題した有料配信事業を開発、年間10事業試行しました。

また、アーカイブスの活用事業として、感染防止のためにオンライン授業を拡大した大学に向け、学生と教員を対象に「映像の世紀」や「プロジェクトX 挑戦者たち」などのNHK番組を配信し、自由に活用してもらおう daigakuTV を開始しました。

DX推進については、在宅勤務など新しい働き方が浸透する中、コミュニケーションの活性化のため社内ブログを立ち上げたほか、独自コンテンツのクラウド管理の仕組みづくりにも着手しました。

(13) <リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取組み>

リスクマネジメント強化及びコンプライアンス推進のため「リスクマネジメント委員会」をWeb会議方式で計2回開催し、2020年度の活動方針や「内部統制の整備状況」、「リスク点検活動」についての承認等を行いました。また、各部門で作成している「業務プロセス図」から抽出したリスクについて、全部門とのレビュー面談を行い必要に応じて修正等を行いました。

「コンプライアンス推進強化月間」には、全社員向けに「在宅勤務の情報セキュリティ」や「個人情報保護」をテーマにWeb会議による勉強会を実施し、多くの社員が参加し、情報や知識を共有しました。また各部門において様々なテーマでの研修会等を開催しました。

情報セキュリティへの取組みとしては、7月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の定期維持審査を受け、認証の継続が認められました。また、在宅勤務や外部システム利用などに関して、「ISMS利用者ガイド」を一部改訂するとともに、可搬型記録媒体の管理状況について全部門を対象に調査を行いました。

内部監査部門は、5部門の監査を行いました。監査結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会にも報告し、取締役会で上期総括報告と年間総括報告を行いました。また、NCMAについては、コーポレートガバナンスの基本的な整備状況の点検のための再調査を実施し、社長に報告したうえで、常勤役

員会での報告を行いました。

(14) <法務・適正取引、顧客対応、システムへの取り組み>

法務・審査部門では、契約関連稟議が年々増加傾向にある中でNHKプラネットとの合併もあり対応件数はさらに増加しましたが（第32期ではおよそ6,000件）、一層精度の高い審査に努めました。

個別には、全社的に「下請法」と昨年度策定した「業務委託の適正性の確保」の遵守の徹底のための啓蒙・指導を行いました。稟議審査においては、承認者用の「チェックポイント」を作成し周知したことにより、契約内容と合わせ発注書・見積書の確認など迅速かつ適正な審査を可能とし、契約書の早期締結に繋がりました。また、昨年度に引き続き、改正民法の施行や状況に応じた契約書ひな型の的確な修正・更新を行うことで適正な契約締結を実現化し、リスク回避・利益確保を導きました。合併にともなって、地域の活性化に資することはもとより各地の魅力を国内外に発信するために契約相談を中心に本社と支社の橋渡し役に努めました。

廃部となったお客様相談室の顧客対応業務（電話受付、メール受付業務）は法務・審査部内で引継ぎ、その業務の実績を持つ外部へ8月より委託したことで、要員の効率化による経費の削減とともにプロの対応によりNEPの顧客満足度の向上をはかり、順調に機能しております。

システム部門では、年度当初の新型コロナ感染拡大に伴う在宅勤務拡大に対応すべく、社員・スタッフ等に在宅勤務環境を提供し、多くの問い合わせ対応を行い、安定運用に努めました。以前から検討・準備をしていた会計システムや著作権システムのERPへの移行を図るため、基本設計を実施し、来年度の次フェイズでは開発に入り、運用開始予定の2022年4月に向けて作業を進めていきます。合わせて、事業提案システムや稟議システムなどの社内システムも刷新するため、業務改革の視点も取り入れ、新システムの検討を実施しました。また、業務の効率化を図るため、RPAの導入を拡大し、現場の作業軽減を図りました。2020年4月のNHKプラネットとの統合に関しては、円滑に移行できるよう、準備を重ね、無事に作業を完了し、この統合により、重複した機能・設備等を順次、整理を進めています。NHKのCSIRTとも連携しつつ、外部からのサイバー攻撃等に備え、確実に対応できる体制作

りや設備の整備をしています。

(15) <分野別売上高>

(単位：千円)

区 分	第 3 1 期 (2019. 4. 1～2020. 3. 31)		第 3 2 期 (2020. 4. 1～2021. 3. 31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放 送 番 組 制 作	40,726,692	67.1%	40,604,948	68.7%	△121,743	△0.3%
映 像 ソ フ ト 販 売	3,319,899	5.5%	3,443,337	5.8%	123,437	3.7%
イ ベ ン ト ・ ソ フ ト 制 作	6,241,653	10.3%	6,090,871	10.3%	△150,782	△2.4%
番 組 提 供 ・ デ ジ タ ル 制 作	3,729,317	6.1%	3,732,284	6.3%	2,966	0.1%
キ ャ ラ ク タ ー 事 業	1,108,749	1.8%	747,337	1.3%	△361,412	△32.6%
権 利 ビ ジ ネ ス	4,386,734	7.2%	3,204,181	5.4%	△1,182,552	△27.0%
N O D 事 業	669,367	1.1%	731,446	1.2%	62,079	9.3%
受 託 映 像 国 際 放 送	520,457	0.9%	526,604	0.9%	6,147	1.2%
合 計	60,702,871	100.0%	59,081,011	100.0%	△1,621,859	△2.7%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2020年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
第19回放送人グランプリ	準グランプリ	E T V特集・選 追悼 中村哲さん 「武器でなく 命の水を」
第19回放送人グランプリ	優秀賞	N H Kスペシャル「全貌 二・二六事件～最高機密文書で迫る～」
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	渡辺直美のナオミーツ
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	土曜ドラマ「サギデカ」
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	B S 1スペシャル「バレリーナ吉田都引退までの闘いの日々」
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	「地球タクシー「ソウルを走る」
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	N H K スペシャル 「認知症の第一人者が認知症になった」
第57回ギャラクシー賞	テレビ部門/奨励賞	アニメ「映像研には手を出すな！」
2020年ギャラクシー賞	5月度月間賞	新日本風土記スペシャル 「松本清張・鉄道の旅」
第46回放送文化基金賞	【番組部門】 テレビエンターテインメント番組/奨励賞	セカンドの美学「ルパン三世・峰不二子」
第36回A T P賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門/優秀賞	B S 1スペシャル 「戦争花嫁たちのアメリカ」
第36回A T P賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門/奨励賞	「聖なる巡礼路に行く ～カミーノ・デ・サンティアゴ 1500km」
第36回A T P賞テレビグランプリ	情報バラエティ部門/優秀賞	スイーツ列車紀行 オリエン特急行ライン・お菓子秘話 西欧の魅力/東欧の甘美
第36回A T P賞テレビグランプリ	情報バラエティ部門/奨励賞	「急上昇↑Z O Oチューバ(第2回)」

第36回ATP賞テレビ グランプリ	情報・バラエティ部門 /優秀新人賞	NEP 番組開発部 ディレクター 出口 明 プロフェッショナル 仕事の流儀 「全力で、いってみよう！コメディアン 萩本欽一」
第36回ATP賞テレビ グランプリ	ドラマ部門/優秀賞 総務大臣賞	完本 怪談牡丹燈籠 Beauty&Fear
映文連アワード2020	【特別表彰】優秀企画賞	『海を渡ったしょうゆ キッコーマン 100年 野田から世界へ』
第45回エランドール賞	映画部門/プロデューサー 奨励賞	NEP 番組開発部 EP 土橋圭介 スパイの妻
第94回キネマ旬報 ベスト・テン	日本映画ベスト・テン 1位	スパイの妻
第75回 文化庁芸術祭	テレビ・ドラマ部門 /優秀賞	完本 怪談牡丹燈籠 Beauty&Fear
第24回文化庁メディア芸術祭	アニメーション部門 /大賞	アニメ「映像研には手を出すな！」
東京アニメアワードフェス ティバル (TAAF) 2021	【アニメ オブ ザ イヤー部門】 テレビ部門/作品賞 (グラン プリ)	アニメ「映像研には手を出すな！」

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
第72回イタリア賞	ウェブ インタラクティブ部門/イタリア賞	NHK「体感 首都直下地震」プロジェクト
2020年 ABU賞	ニューメディア・デジタルコンテンツ部門/ABU賞	NHK「体感 首都直下地震」プロジェクト
2020 オタワ国際アニメーション映画祭	コンペティション未就学児童部門	『プチプチ・アニメ ふわふわアワー PuiPui & MuuMuu』 「ふしぎなタネ」
2020年ザグレブ国際アニメーション映画祭（クロアチア）	Films for Children Competition 1 (age: 4-7)	
World Media Festival contest 第21回ワールド・メディア・フェスティバル	エンターテインメント 特集部門：インターメディア・グローブ銀賞(カテゴリー2位)	8Kスペシャルドラマ 「浮世の画家」
第53回ニューヨーク・フェスティバル 2020 (New York Festivals 2020)	エンターテインメントスペシャル・ドラマスペシャル部門：銀賞	8Kスペシャルドラマ 「浮世の画家」
第52回アメリカ国際フィルム・ビデオ祭	ドキュメンタリー：スポーツレクリエーション部門：クリエイティブ・エクセレンス賞(サブカテゴリー3位)	世界はTokyoをめざす 「父と歩め！柔の道～イタリア 男子柔道～」
第52回アメリカ国際フィルム・ビデオ祭	ドキュメンタリー：社会問題部門：ゴールド・カメラ賞(サブカテゴリー1位)	BS1スペシャル 「ジェイクとシャリース～僕は歌姫だった～」
第52回アメリカ国際フィルム・ビデオ祭	ドキュメンタリー：健康／医療部門：シルバー・スクリーン賞(サブカテゴリー2位)	NHKスペシャル 「認知症の第一人者が認知症になった」
ニューヨーク・タイムズ紙が選ぶ2020年度版	【Best TV show (ベストTV番組)】 【Best International Show (ベスト海外TV番組)】	アニメ「映像研には手を出すな」
第4回 MIPCOM ダイバーシファイ・テレビ・エクセレンス・アワード	LGBTQ+ 台本なし部門：最優秀賞	BS1スペシャル 「ジェイクとシャリース～僕は歌姫だった～」

Crunchyroll Anime Awards 2021	Best Animation	アニメ「映像研には手を出すな！」
-------------------------------	----------------	------------------

3. 対処すべき課題

新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、番組やイベントなどNEPの多くの事業は中止や見直しを迫られ、2020年度の売り上げは6年ぶりに減収に転じました。2021年度以降も、番組制作の委託費の減少など、NEPを取り巻く経営環境は厳しさを増す一方です。そうした中、新しい経営理念「Enterprises for All! 冒険・創造・貢献。社会のために、すべての人のために!」のもと、公共メディアNHKを支えるNHKグループの一員として、中期経営計画で示した5つの重点項目を柱にNHKの放送を支え、また社会にソリューションを提供するさまざまな事業に挑戦していきます。

NEPのコアコンピタンスは、高いコンテンツ制作力と展開力、そして全国支社のネットワークです。これらを活用し5つの重点項目に取り組みます。まずは、ヒット作「チョコちゃんに叱られる!」に続く国民的番組や、若者からも支持されるSNS連動番組などのコンテンツを開発します。ジャンル別編成に合わせ、各ジャンルのターゲットに訴求する最適なコンテンツを制作します。最先端技術を使った大型シリーズ番組を世界に発信し、NHKブランドの価値を高めます。また、アニメ事業のように、IPをもってコンテンツ展開をさらに進め活性化させます。

イベント事業では、「忍たま乱太郎」など、番組から派生した2.5次元イベントをリアル&オンラインのハイブリット型に進化させます。3D、AR、VRなど最新のデジタル技術を駆使したイベントなど、展開のジャンルの幅を広げNHKのトータルリーチ拡大にさらに貢献します。

新規事業の開拓においては、貴重な映像資産を大学などの教育機関のオンライン授業に提供することで、NHKに接触機会の少ない若い世代の学びを支えます。さらに、NEPが開発した技術によって、古い貴重なビデオ映像を高画質化して番組に活用したりするなど、社会還元の取り組みも進めます。

NHKプラネットと合併し2年目となる2021年度は、NEP本社と全国支社との連携で、地域の放送をより充実させるとともに、防災や医療などのイベント・フォーラムを各地で開催し、地域の安全・安心を守ります。また、国連が呼びかけたSDGメディア・コンパクトにNHKグループとして初めて参加したNEPは、SDGsの目標達成に向けさまざまな取り組みを行います。「高校生ボランティア・アワード」といったイベントの制作や番組制作などでSDGsに貢献します。

経営においては、中間持株会社の設立も含めた大きな変革を見据えて、成長分野と縮小・撤退する分野を仕分けして、構造改革と経営資源の再配置を進めていきます。7月には組織改正を行い、これまで取締役が行っていた、事業別組織の業務執行、いわゆる「タテ管理」をセンター長が行い、取締役は経営課題に専念する「ヨコ管理」を行うことで、全社的な経営判断をよりスピーディーに行えるよういたします。さらに、「デジタルソリューションセンター」を新設し、あらゆる分野でDXを行い、業務の高度化・効率化を図っていきます。

NHKエンタープライズは、どんな変化にも動じない、スリムで強靱な組織を目指してまいります。

4. 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は8億14百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物	64	事務所改装
	36	NHKプラネット合併
	32	ワープステーション江戸変電工事
有形固定資産 機械	13	NHKプラネット合併
有形固定資産 工具器具備品	50	仮想サーバー、編集機他
	27	PC、HDD他周辺機器
	8	什器その他
	24	NHKプラネット合併
	22	その他
有形固定資産 リース資産	4	NHKプラネット合併
無形固定資産 ソフトウェア	456	新基幹システム
	56	NHKプラネット合併
	12	その他
無形固定資産 電話加入権	5	NHKプラネット合併
計	814	

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

7. 事業譲受の状況

該当事項はございません。

8. 吸収合併・分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

当社は、2020年4月1日を合併期日として、株式会社NHKプラネットを吸収合併しました。この合併は、両社統合による経営基盤の強化を目的とするものです。

9. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はございません。

10. 財産および損益の状況の推移

(単位：千円)

区 分	第 29 期 (2018年3月期)	第 30 期 (2019年3月期)	第 31 期 (2020年3月期)	第 32 期 (2021年3月期)
売 上 高	55,285,650	59,191,613	60,702,871	59,081,011
営 業 利 益	663,820	2,082,625	2,908,613	2,235,524
経 常 利 益	1,186,932	2,342,779	3,280,046	2,334,960
当 期 純 利 益	826,654	1,604,812	1,277,029	1,497,386
1株当たり当期純利益	140,253円53銭	272,279円09銭	216,666円00銭	233,201円38銭
総 資 産	24,949,179	28,243,496	28,791,741	32,501,895
純 資 産	14,709,095	15,865,822	16,158,423	18,947,404

11. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

12. 主要な事業所等

本 社 東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
近畿総支社 大阪府中央区谷町三丁目1-1 NS21ビル
四国支社 松山市堀之内5 NHK松山拠点放送局内
中部支社 名古屋市東区東桜一丁目13-3
NHK名古屋放送センタービル
中国支社 広島市中区大手町二丁目11-10
NHK広島放送センタービル
九州支社 福岡市中央区六本松一丁目1-10
NHK福岡放送センタービル
東北支社 仙台市青葉区本町二丁目9-7 仙台YFビル
北海道支社 札幌市中央区大通西一丁目 NHK札幌拠点放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63

ワープステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

13. 従業員の状況

	従業員	NHK出向者等	計	増減	平均年齢
男	387名	136名	523名	+ 148名	51才 8か月
女	191名	27名	218名	+ 75名	46才 0か月
計	578名	163名	741名	+ 223名	50才 0か月

注1：役員、デジタルSKIPステーション、海外現地法人、NHK文化センター、NHKへの出向者は含まれません

注2：契約社員を含みます

14. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社との関係

当社の親会社は、NHKであり、当社の株式5,229株を保有しており、これは当社の議決権比率の81.4%に当たります。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放

送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っております。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はございません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、親会社NHKとの取引をするにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

15. 主要な借入先と借入額

借入先	借入金残高
株式会社 みずほ銀行	50,000 千円

Ⅱ. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 10,000 株
2. 発行済株式の総数 6,421 株
3. 期末株主数 8 名

4. 株 主

株 主 名	持 株 数	持株比率
日本放送協会	5,229 株	81.44%
株式会社NHKテクノロジーズ	240 株	3.74%
株式会社NHKグローバルメディアサービス	210 株	3.27%
株式会社NHK出版	181 株	2.82%
株式会社NHKエデュケーショナル	158 株	2.46%
株式会社NHKアート	154 株	2.40%
株式会社NHKプロモーション	148 株	2.30%
株式会社NHK文化センター	101 株	1.57%

Ⅲ. 会社役員に関する事項

1. 役員 の 地位、氏名、担当、兼職 の 状況

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	安齋 尚志	全体統括	
常務取締役	山崎 秋一郎	地域本部長	
常務取締役	河内 秀則	経営企画室長 業務改革推進室	
常務取締役	菅 康弘	制作本部長 制作本部 番組開発部 自然科学番組部 海外戦略室	
取締役	諏訪 雄一	事業本部長 事業本部クリエイティブ事業センター長 建築管理(建設業経営管理業務責任者)	
取締役	押田 敦	事業本部副本部長 事業本部コンテンツ展開センター長 コンテンツ販売部	
取締役	尾崎 充信	制作本部副本部長 ドラマ番組部 語版展開部	
取締役	松本 俊博	イノベーション戦略室長 ライツアーカイブスセンター長	
取締役 (非常勤)	熊埜御堂朋子		(株)NHKエデュケーショナル 社長
取締役 (非常勤)	森永 公紀		(株)NHK出版社長
取締役 (非常勤)	矢野 達史		NHK地域改革推進 室長
取締役 (非常勤)	江口 貴之		NHK関連事業局 専任部長
取締役 (非常勤)	松本 浩司		NHK編成局長
取締役 (非常勤)	田波 宏視		NHK制作局長
監査役	渥美 哲		
監査役 (社外)	大月 将幸		弁護士・公認会計士
監査役 (社外)	海野 正一		
監査役 (社外・非常勤)	堤 優加		(株)みずほ銀行 情報通信・リテール二部 次長
監査役 (非常勤)	小山 雅典		NHK内部監査室監査部 専任部長

注1：2020年4月1日の合併の効力発生に伴い、同日付で新たに山崎秋一郎、杉山太一が取締役に、
大月将幸が監査役（社外）に就任しました。

注2：2020年6月29日付で、松本俊博が取締役に、熊埜御堂朋子、松本浩司、田波宏視が取締役（非常

勤)に、海野正一が監査役(社外)に就任しました。また、同日付で佐藤幹夫、柳田昌賢、加藤久仁、飯田秀生、杉山太一が取締役を、掛川治男、小野木昌史、佐藤高彰が取締役(非常勤)を、木村弘巳が監査役(社外)を退任しました。

注3: 2020年8月25日付で、矢野達史、江口貴之が取締役(非常勤)に、小山雅典が監査役(非常勤)に就任しました。また、同日付で湯川英俊が取締役(非常勤)を、嶺野晴彦が監査役(非常勤)を退任しました。

注4: 監査役渥美哲は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。監査役(社外)大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。監査役(社外)海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。監査役(社外・非常勤)堤優加が兼職している(株)みずほ銀行は、当社の取引銀行です。

2. 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員 数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	160,017千円	117,645千円	42,017千円	13人
監査役 (社外役員を除く)	11,760千円	11,760千円		1人
社外役員	20,568千円	20,568千円		3人

※使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

※非常勤取締役10人、非常勤監査役3人に対しては、報酬を支払っておりません。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、木村弘巳監査役は2020年4月から6月の在任期間中に開催された取締役会に2回出席[2回開催中]、監査役会に3回出席[3回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

社外監査役のうち、大月将幸監査役は当年度に開催された取締役会に6回出席[6回開催中]、監査役会に9回出席[9回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

海野正一監査役は2020年6月から2021年3月に開催された取締役会に

4回出席[4回開催中]、監査役会に6回出席[6回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

堤優加監査役は当年度に開催された取締役会に4回出席[6回開催中]、監査役会に9回出席[9回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 25,250千円

上記以外の業務に関する報酬 4,290千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っています。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である、収益認識会計基準等への移行にかかわる会計上の影響度調査業務を委託し、対価を支払っております。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としております。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はございません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

（平成27年9月17日 取締役会決議）

（1）当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章と行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。

また、コンプライアンスを確保するため、「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、全社的に法令遵守が確保される体制をとっている。

今後さらに取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、すでに設置されている「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。

②取締役会については、「NHKエンタープライズ取締役会規則」が定められ、その適切な運営が確保されており、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に職務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止している。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図っていく。

③同様に、社長、常勤役員ほかで構成する常勤役員会については「役員規程」、執行役員については「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保していく。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図っていく。

④コンプライアンス関連の研修、社内報等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」「経理規程」により、取締役、社員の職務執行の透明性を向上させる。

(2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ①「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、適切かつ確実に保存・保管され、「常勤役員会議事録」については、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置かれている。
- ②「文書管理規程」に定められた文書の扱いを遵守することにより、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

(3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、当社の事業に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアルの整備等を進めている。また、公共放送グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払っている。さらにNHKグループ全体にかかわるリスクについては、「NHKグループ通報制度規程」にもとづいて、NHK総合リスク管理室に、速やかに報告・連絡することになっている。
- ②新たなリスクが発生した場合には、必要に応じ、速やかに対応責任者となる取締役を定める。

(4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務権限および職制を定め、取締役の職務権限と責任および指揮命令系統を明確にしている。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。
- ③ITを活用した稟議システムを構築し、迅速な意思決定を図っている。
- ④中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行っている。
- ⑤さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討していく。

(5) 当社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

①当社の親会社にあたるNHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。

②NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基き、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。

③NHKの監査委員は、NHK役員の職務の執行を監査するため必要があるとき、当社の事業の報告を求めたり、当社の業務および財産状況を調査できることになっており、その場合には、当社は、適切な対応を行う。

④NHKは、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。

また、放送法により、NHKに対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。

NHKには、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」の策定、「通報窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。

⑤当社の子会社等については、定期的に業務報告を受けており、当社担当取締役によって、日常的にチェックが行われている。

また、子会社等のコンプライアンスについては、子会社等の社長を責任者とする体制を整備し、法令遵守にあたることになっている。

(6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当

社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については、監査役会の同意を得た上で、取締役会が決定する。なお、平成21年3月、監査役から求めがあったので、監査役補助者を任命している。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。

(7) 当社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社および当社グループに重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。

②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

(8) 当社の監査役職務の執行について生ずる費用の前払い等に係る方針に関する事項、その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求があったときは、当該請求に係る費用または債務が、監査役職務の執行に必要なでない場合を除き、当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役14名（うち、非常勤取締役6名）で構成されていて、社外監査役3名を含む5名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や

内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備して、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的実施してコンプライアンスの徹底を図っています。当社の内部監査部門では、年度ごとの内部監査計画に基づき内部監査を実施しています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2021年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。